

スポーツ用品市場に関する調査を実施(2017年)

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内スポーツ用品の市場調査を実施した。

1. 調査期間: 2017年1月～3月
2. 調査対象: スポーツ関連企業・メーカー・卸売業・輸入商社・小売業等
3. 調査方法: 当社専門研究員による直接面談、ならびに郵送アンケート調査を併用

<スポーツ用品市場とは>

本調査におけるスポーツ用品市場とは、ゴルフ、スキー・スノーボード、釣り、アスレチックウエア、アウトドア、スポーツシューズ、テニス、スイム、野球・ソフトボール、サイクルスポーツ、バドミントン、武道、卓球、フィットネス、サッカー・フットサル、バスケットボール、バレーボール、ラグビーの主要18分野の関連用品を対象とし、メーカー出荷金額(国内出荷額)ベースで市場規模を算出した。

なお、アスレチックウエアは「トレーニングウエア」や「ライフスタイルウエア(カジュアルウエア)」、「陸上競技・ランニングウエア」を、スポーツシューズは「ランニングシューズ」や「ウォーキングシューズ」、「多目的シューズ(カジュアルスニーカーを含む)」、「キッズシューズ」、「スポーツサンダル」を対象とした。

【調査結果サマリー】

◆ 2016年のスポーツ用品国内市場は前年比101.9%とプラス成長の見込

2016年のスポーツ用品国内市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、前年比101.9%の1兆4,186億9,000万円の見込みである。18分野中14分野で市場成長を遂げ堅調な推移を見込む。

◆ 2016年のスポーツ用品国内市場で約2割を占めるスポーツシューズは

前年比106.7%と全18分野のなかで最も高い成長率

2016年のスポーツシューズ国内市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、前年比106.7%の2,601億円の見込みである。2016年は、これまで過熱したインバウンド(訪日外国人客)需要が落ち着きを見せたことで成長率は前年から鈍化したものの、スニーカーブームやランニングブームの旺盛な消費者需要に支えられプラス成長を維持するとみる。

◆ 2017年のスポーツ用品国内市場は前年比102.6%と予測

2017年のスポーツ用品国内市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、前年比102.6%の1兆4,555億5,000万円を予測する。2017年は円相場が再び円安基調で推移し、インバウンド需要が期待されるほか、ランニングブームも依然として継続していることから、スポーツ用品国内市場は今後も安定して推移すると予測する。

◆ 資料体裁

資料名:「2017年版 スポーツ産業白書」
発刊日:2017年3月30日
体裁:A4判 590頁
定価:155,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

㈱矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】**1. 市場概況**

2016年のスポーツ用品国内市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、前年比101.9%の1兆4,186億9,000万円の見込みである(表1参照)。18分野中14分野で市場成長を遂げ、堅調な推移を見込む。

1-1. ゴルフ用品

2016年のゴルフ用品国内市場規模(出荷額)は、前年比98.9%の2,563億8,000万円の見込みである。ゴルフ用品のなかでも約4割を占めるゴルフクラブの需要が低迷し、ゴルフ用品市場全体でも微減で推移する見通しである。

1-2. スキー・スノーボード用品

2016年のスキー・スノーボード用品国内市場規模(出荷額)は、前年比88.4%の439億8,000万円になる見込みである。前年(2015/2016シーズン)の記録的な暖冬、および降雪の遅れなどから小売店は多くの在庫を抱えたことで、製品の新規出荷が停滞し、その結果マイナス成長を見込む。

1-3. 釣り用品

2016年の釣り用品国内市場規模(出荷額)は、前年比102.4%の1,305億4,000万円を見込む。近年、釣り用品の値上げが続いていることで平均単価が上昇し、2016年もプラス成長で推移する見通しである。

1-4. アスレチックウェア

2016年のアスレチックウェア国内市場規模(出荷額)は、前年比101.8%の1,811億5,000万円を見込む。近年、流通在庫過多によって出荷調整をしてきたが、2016年は在庫調整がつき、供給が正常化したことで前年からのプラス成長を見込む。

1-5. アウトドア用品

2016年のアウトドア用品国内市場規模(出荷額)は、前年比104.4%の1,992億8,000万円の見込みである。野外フェスティバルやキャンプを中心とするライトアウトドア需要と、アウトドアアパレルやザック類を日常使用する消費者需要の盛り上がり、アウトドア用品市場全体のプラス成長に寄与している。

1-6. スポーツシューズ

2016年のスポーツシューズ国内市場規模(出荷額)は、前年比106.7%の2,601億円の見込みである。2016年は、これまでの過熱したインバウンド(訪日外国人客)需要が落ち着きを見せたことで成長率は前年から鈍化したものの、スニーカーブームやランニングブームの旺盛な消費者需要に支えられプラス成長を維持するとみる。

1-7. テニス用品

2016年のテニス用品国内市場規模(出荷額)は、前年比100.7%の565億8,000万円の見込みである。テニスのメディア露出増加によって過熱したブームが収束し、市場成長率は鈍化するものとみる。

1-8. スイム用品

2016年のスイム用品国内市場規模(出荷額)は、前年比102.1%の221億5,000万円の見込みである。2016年は、リオデジャネイロオリンピック戦略モデルが市場投入されたことでプラス成長を見込む。

1-9. 野球・ソフトボール用品

2016年の野球・ソフトボール用品国内市場規模(出荷額)は、前年比100.4%の729億1,000万円の見込みである。当該用品のなかでも、野球・ソフトボールウェアの出荷額が微増で推移したことで、野球・ソフトボール用品全体市場のプラス成長に寄与している。

1-10. サイクルスポーツ用品

2016年のサイクルスポーツ用品国内市場規模(出荷額)は、前年比97.8%の395億3,000万円の見込みである。2015年の商品の流通在庫調整のため、2016年はメーカー側の供給抑制により前年を下回る見通しである。

1-11. バドミントン用品

2016年のバドミントン用品国内市場規模(出荷額)は、前年比105.0%の152億8,000万円の見込みである。リオデジャネイロオリンピックにおける日本代表選手の活躍によってメディア露出が増加し、競技に対する関心が高まったことで競技人口が増えるものとみられ、2016年はプラス成長を見込む。

1-12. 武道用品

2016年の武道用品(剣道、柔道、空手)国内市場規模(出荷額)は、前年比100.1%の117億4,000万円の見込みである。近年、出荷が伸び悩んでいる武道用品市場であるが、2016年は柔道と空手の需要が回復しマイナス成長を回避する見通しである。

1-13. 卓球用品

2016年の卓球用品国内市場規模(出荷額)は、前年比104.0%の126億3,000万円の見込みである。2012年ロンドンオリンピックにおける日本女子代表選手の銀メダル獲得以降、過熱する卓球人気によって当該用品市場はプラス成長が続いている。2016年のリオデジャネイロオリンピックにおいても卓球人気に拍車がかかり、2016年もプラス成長となる見通しである。

1-14. フィットネス用品

2016年のフィットネス用品国内市場規模(出荷額)は、前年比103.2%の154億4,000万円の見込みである。ヨガの人気によってフィットネスウェアの市場が拡大し2016年もプラス成長を見込む。

1-15. サッカー・フットサル用品

2016年のサッカー・フットサル用品国内市場規模(出荷額)は、前年比100.5%の626億1,000万円を見込む。サッカーシューズの単価上昇が市場全体に寄与し2016年はプラス成長に転じる見通しである。

1-16. バasketボール用品

2016年のBasketボール用品国内市場規模(出荷額)は、前年比106.7%の253億円を見込む。Basketボールシューズの単価上昇と、ウェアの規定変更に伴う買い替え需要によってプラス成長が見込まれる。

1-17. バレーボール用品

2016年のバレーボール用品国内市場規模(出荷額)は、前年比98.7%の100億4,000万円を見込む。バレーボール専用プラクティスウェア(練習着)の需要縮小で2016年もマイナス成長の見通しである。

1-18. ラグビー用品

2016年のラグビー用品国内市場規模(出荷額)は、前年比105.2%の30億5,000万円の見込みである。日常使いを想定して発売したカジュアルウェアが好調に推移し2016年もプラス成長を見込む。

2. 将来予測

2017年のスポーツ用品国内市場規模(メーカー出荷金額ベース)は、前年比102.6%の1兆4,555億5,000万円を予測する。2017年は円相場が再び円安基調で推移し、インバウンド需要が期待されるほか、ランニングブームも依然として継続していることから、スポーツ用品国内市場は今後も安定して推移すると予測する。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、スポーツに関心を寄せる一般消費者層が増加することも予想され、スポーツ用品国内市場全体に好影響を与えるものと考えられる。

表 1. スポーツ用品分野別国内市場規模推移

単位:百万円,% 上段:構成比 下段:前年比

	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年(見込)		2017年(予測)	
		%		%		%		%		%		%
ゴルフ	251,420	19.8	262,960	20.0	251,030	18.6	259,250	18.6	256,380	18.1	261,680	18.0
		-		104.6		95.5		103.3		98.9		102.1
スキー・スノーボード	51,980	4.1	52,590	4.0	52,010	3.9	49,770	3.6	43,980	3.1	40,130	2.8
		-		101.2		98.9		95.7		88.4		91.2
釣り	115,340	9.1	121,070	9.2	123,850	9.2	127,530	9.2	130,540	9.2	134,470	9.2
		-		105.0		102.3		103.0		102.4		103.0
アスレチックウエア	172,370	13.6	175,130	13.3	177,760	13.2	177,960	12.8	181,150	12.8	186,320	12.8
		-		101.6		101.5		100.1		101.8		102.9
アウトドア	163,670	12.9	174,190	13.2	179,660	13.3	190,960	13.7	199,280	14.0	205,600	14.1
		-		106.4		103.1		106.3		104.4		103.2
スポーツシューズ	185,910	14.7	197,630	15.0	224,780	16.6	243,670	17.5	260,100	18.3	271,310	18.6
		-		106.3		113.7		108.4		106.7		104.3
テニス	55,170	4.4	55,570	4.2	54,230	4.0	56,200	4.0	56,580	4.0	58,630	4.0
		-		100.7		97.6		103.6		100.7		103.6
スイム	21,810	1.7	22,190	1.7	22,280	1.6	21,700	1.6	22,150	1.6	22,310	1.5
		-		101.7		100.4		97.4		102.1		100.7
野球・ソフトボール	72,880	5.7	74,260	5.6	73,650	5.5	72,610	5.2	72,910	5.1	73,830	5.1
		-		101.9		99.2		98.6		100.4		101.3
サイクルスポーツ	32,450	2.6	32,280	2.5	37,180	2.8	40,400	2.9	39,530	2.8	42,460	2.9
		-		99.5		115.2		108.7		97.8		107.4
バドミントン	11,840	0.9	12,580	1.0	13,330	1.0	14,550	1.0	15,280	1.1	15,480	1.1
		-		106.3		106.0		109.2		105.0		101.3
武道	12,700	1.0	12,200	0.9	11,850	0.9	11,730	0.8	11,740	0.8	11,770	0.8
		-		96.1		97.1		99.0		100.1		100.3
卓球	9,790	0.8	11,120	0.8	11,470	0.8	12,150	0.9	12,630	0.9	13,250	0.9
		-		113.6		103.1		105.9		104.0		104.9
フィットネス	15,530	1.2	14,540	1.1	14,340	1.1	14,960	1.1	15,440	1.1	15,960	1.1
		-		93.6		98.6		104.3		103.2		103.4
サッカー・フットサル	61,800	4.9	62,840	4.8	66,640	4.9	62,320	4.5	62,610	4.4	63,150	4.3
		-		101.7		106.0		93.5		100.5		100.9
バスケットボール	20,780	1.6	21,900	1.7	23,610	1.7	23,710	1.7	25,300	1.8	25,900	1.8
		-		105.4		107.8		100.4		106.7		102.4
バレーボール	10,380	0.8	10,170	0.8	10,200	0.8	10,170	0.7	10,040	0.7	10,230	0.7
		-		98.0		100.3		99.7		98.7		101.9
ラグビー	2,260	0.2	2,360	0.2	2,750	0.2	2,900	0.2	3,050	0.2	3,070	0.2
		-		104.4		116.5		105.5		105.2		100.7
スポーツ用品	1,268,080	100.0	1,315,580	100.0	1,350,620	100.0	1,392,540	100.0	1,418,690	100.0	1,455,550	100.0
国内市場規模(合計)		-		103.7		102.7		103.1		101.9		102.6

矢野経済研究所推計

注 1.メーカー出荷金額(国内出荷額)ベース

注 2.2016年は見込値、2017年は予測値

注 3.アスレチックウエアは、「トレーニングウエア」や「ライフスタイルウエア」、「陸上競技・ランニングウエア」を、スポーツシューズは「ランニングシューズ」や「ウォーキングシューズ」、「多目的シューズ(カジュアルスニーカーを含む)」、「キッズシューズ」、「スポーツサンダル」を対象とした。また、ゴルフウエアやサッカーシューズ等の各競技関連用品は、それぞれの当該用品分野に含まれる。